事業番号	事務事業	名	佐伯高等学校の魅力化支援						管課	名	地域	振興部中山間地域振興室	所属長名	正木 常貴
	方向性	2	人を育む	を育む 来を担う人づくり					係・グループ名 中山間地域振興係					
	重点施策	3	未来を担う						処法令	等	廿日市市教育振興基本計画			
	施策方針	2	地域と学校	の協働	動による創造	性豊才	かな子どもの育成	基本	事業					
- # T	会計	01	款	02	項	01	目	11	事業1	事業2	経·臨 予算上の事業名			名
予算科目	一般会言	 	総務費	努費 総務管理費 コミュニティ振					010	55	臨 中山間地域振興事業(佐伯高等学校分)(政策)			学校分)(政策)

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
一 半十及味返じ		等学校の在り方に係る基本計画」で、2年連続して生徒数
	ため、次のような収益を実施している。 - 佐伯高等学校魅力化担当地域支援員の配置 - 佐伯高等学校の魅力発信 - 佐伯高等学校の魅力発信	示された。平成20年度から「佐旧高寺子校活性化地域協議会」で取組案等の協議を重ね、支援を開始した。 ※「佐伯高等学校活性化地域協議会」は、平成28年度に 「佐伯高等学校を応援する会」に統合された。
□ 単年度のみ	・公営塾の開催	※基本計画(第2期)(令和6年度~令和15年度)で、統廃合の検討の基準が2年連続して新入生徒数が20人未満又は全校生徒数が60人未満に緩和された。

·佐伯高等 ·通学費報 ·公営塾 <i>0</i>	学校の 助金、)開催	り魅力 下宿野	担当地域支援員の配置 発信 費補助金、下宿改修費補助金の交付 学校を応援する会」への助成	※「佐· 「佐伯· ※基本 の検討	会」で収組条等の協議を重ね、文接を開始した。 ※「佐伯高等学校を活性化地域協議会」は、平成28年度に 「佐伯高等学校を応援する会」に統合された。 ※基本計画(第2期)(令和6年度~令和15年度)で、統廃合 の検討の基準が2年連続して新入生徒数が20人未満又は 全校生徒数が60人未満に緩和された。					
2 事務事業の対象・意図・活動・成果	指標									
主な活動内容		活動	指標(活動の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
	\rightarrow	ア	公営塾の開催回数	回	目標 実績	90 73	90 58	90 68	90	90
佐伯高等学校の魅力発信 公営塾の開催 補助金の交付	\rightarrow	1	Facebookでの情報発信回数(佐伯 高等学校及び市)	回	目標	40 58	40 52	40 58	40	40
開助並の文刊	\rightarrow	ゥ	オープンスクール開催回数	回	目標	2	2	2	2	2
	_			!	24120					
対象(誰、何を対象にしているのか)		対象	指標(対象の規模)	単位		4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年月
	\rightarrow	ア	佐伯高等学校の生徒数(5月1日現 在)	人	見込 実績	80 91	90 85	90 103	90	90
佐伯高等学校の生徒 中学生	\rightarrow	1	オープンスクール参加者数(中学生)	人	見込実績	70 93	70 71	70 51	70	70
TT-	\rightarrow	ゥ			見込 実績	93	/1			
	_		l		夫領					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)		成果	指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
	\rightarrow	ア	佐伯高等学校の生徒数(5月1日現 在)	人	目標 実績	80 91	90 85	90 103	90	90
今後の県立高等学校の在り方に係る基 本計画(第2期)で小規模校の目指す値			地元中学校(佐伯中・吉和中)からの進 学率(地元中出身生徒数/昨年度地元	%	目標	35	35	35	35	35
とされている「全校生徒数が80名以上」 を上回ること。			中学3年生生徒数)		実績	26	14	28		
	\rightarrow	ゥ			目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)		佐竺	の成果指標	単位	区公	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
四本 (四ぴ 2 /	-	<mark>ル東</mark> ア	今住んでいる地域の行事に参加している 生徒の割合(児童生徒学習意識等調査	学位	目標	52.0	53.0	54.0	55.0	56.0
地域への理解・関心を持つ			結果より)		実績	41.3	40.9	36.9		

	施策	の成果指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
		今住んでいる地域の行事に参加している 生徒の割合(児童生徒学習意識等調査		目標	52.0	53.0	54.0	55.0	56.0
→		主作の制占(元重主化子自息職等調査 結果より)	%	実績	41.3	40.9	36.9		
\rightarrow				目標					
	1			実績					

3 事務事業の予算・コスト概要

-	3 事務事業の予算・コスト微要										
	年度 令和3年度決算 令和4年			令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度(予算)					
Ę	事業費(A) (円)	15,411,850	15,842,652	16,559,292	20,312,339	3,753,047	25,590,000				
	国庫支出金					0					
財	県支出金	191,000	295,000	249,000	295,000	46,000	340,000				
源内	市債		14,900,000	13,200,000	11,700,000	-1,500,000	10,000,000				
訳	その他特財					0					
	一般財源	15,220,850	647,652	3,110,292	8,317,339	5,207,047	15,250,000				
業務	務延べ時間 (時間)	2,300	2,300	2,300	2,300	0					
	人件費(B)(円)	10,097,000	9,810,000	10,047,000	10,198,000	151,000	0				
ż	トータルコスト(A+B) 25,508,850			26,606,292	30,510,339	3,904,047	25,590,000				
	主な	は支出項目	令和	口6年度(決算)	備考						
広島	県立佐伯高等学校	舌性化支援事業補助:	金	2,220,384 円							
佐伯	高等学校下宿費補助	助金	1	4,940,000 円							
佐伯	高等学校通学費補助	助金		2,056,300 円							
公営	塾学習支援員報酬	貴等		724,655 円							

所管課名

地域振興部中山間地域振興室

4 事務事業の環境変化・住民意見等

5 事業評価(令和 6 年度決算の評価)

	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)									
	見直し余地がある✓ 結びついている	理由 説明	地元中学生の進学先の確保、地域の将来の担い手育成及び地域力の維持・向上を図るために地域になくてはならない高校である。							
的妥	②市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せることはできないか。)									
女当性評	□ 見直し余地がある☑ 妥当である	理由 説明	「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」において、各学校が学校関係者、所在する市町及び市町 教育委員会等で構成する「学校活性化地域協議会」を設置し、活性化策を検討・実施して全校生徒数が80 人以上となることを目指すこととなっており、市が関与することは妥当である。							
価	③対象・意図の妥当性(事務事	③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)								
	□ 見直し余地がある ☑ 適切である	理由 説明	中山間地域で唯一の高校であり、地元中学生の進学先の確保、地域の将来の担い手育成及び地域力の維持・向上を図るために存続させていく必要がある。							
	④成果の向上余地(成果向上)	の余地はな	・ いか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)							
	☑ 向上余地がある □ 目標水準に達している	理由 説明	佐伯高等学校の魅力を地域内外に浸透させるため、効果的な魅力発信をする必要がある。安定的な志願 者確保のため、県外を含む部活及び地元中学生の両者へ向けた情報発信をしていく必要がある。							
有	こうにより、									
効性評価	□ 影響がない✓ 影響がある	理由 説明	魅力化支援の取組廃止により、生徒数が減少して佐伯高等学校が統廃合された場合、地域外への転出が 加速し、地域力の衰退が危惧される。							
ΙЩ	⑥類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)									
	□ 改善余地がある ☑ 改善余地がない	理由 説明	広島県の「魅力ある高校づくり事業」や、同窓会、教育後援会(保護者会)による支援を活用しており、関係 団体と連携して取り組んでいる。 「佐伯高等学校を応援する会」と連携して役割分担をしながら、魅力化支援を行っている。							
	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)									
効	削減余地がある	理由	魅力発信や公営塾の開催などを継続して実施していく必要があり、事業費の削減余地はない。							
率性	☑ 削減余地がない	説明								
評	8 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)									
価	□ 削減余地がある □ 削減余地がない	理由 説明	地域や高校と連携・役割分担して取り組んでおり、人件費の削減余地はない。							
公平	⑨受益機会・費用負担の適正化余	除地(事業内	- 容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)							
半性評価	見直し余地がある✓ 公平・公正である	理由 説明	公営塾の開催並びに下宿費、通学費、下宿改修費及び活性化支援事業の補助などを通じて、佐伯高等学校のさらなる魅力化を図り、同校の魅力を発信して、地域を支えるかけがえのない資源である同校を存続させていくものであり、一部の受益者に偏った取組ではない。							

評価	✓ 公平·公司	Eである		説明		カ化を図り、同校の魅力を発信して、地域を支えるかり あり、一部の受益者に偏った取組ではない。	ナがえのない貧源である同校を存続さ					
6 事	6 事業評価の総括と今後の方向性											
①上	記の評価結果	Į				②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠						
Α	目的妥当性	>	適切		見直しの余地有り	地域支援員の配置、公営塾の開催、魅力発信、各種						
В						たため、令和7年度の入学者数が32名と定員の8割 安定的な下宿生の受入のため、必要に応じて新たな						
С	効率性	V	適切		改善の余地有り	- カヴルナヤ色しょ ハヴ動ナルカカルはに加ってがたにまれたサイナヤ色して実施し						
D	公平性	✓	適切		見直しの余地有り	一个の進学のきっかけづくりとなった。	-エと文派することで、佐口同寺子仪					
3今	後の事業の方	ī向性(改革	改善	案)•••複数	效選択可		④改革改善案による成果・コストの期待効果					
	拡充	☑ 現状維	持			今後の改革改善案						
	目的再設定 休止·廃止	□ 改善□ 完了		等)の支援 連携した料	爰やPR動画作成 情度の高いものと	営塾の実施、特色ある教育活動(授業・SAEKI QUEST など、現在、すでに行なわれている内容をより学校と -する。 め、必要に応じて新たな下宿先の確保を行う。	コスト 削減 維持 増加 向上					
⑤改.	革改善案を実	成果維持										
	との連携を強、 、下宿先は、T	低下 低下 (廃止・休止、完了の場合は記入不要)										